

研究員 卒業レポート

センターでの2年間で振り返って

客員研究員(今治市役所) 徳永 瑠衣

はじめに

私は令和元年度から2年間、公益財団法人えひめ地域政策研究センター(以下、センター)に在籍させていただきました。センター職員は、ほぼ全員が出向者で構成されています。そのため、1つの業務に対して多角的なアプローチが浮かび上がってくる職場は、いつも気兼ねなく意見交換ができる場でした。そして、やはり出会いが全てだったと思います。本紙連載中の若松進一氏や岡崎直司氏をはじめ、地域づくり活動の先駆者の方々や移住支援団体の方々、行政職員の方々と、多くの出会いに恵まれた2年間でした。

事業を通じた出会い

在籍中には多くの地域を訪れましたが、特に南予地域は新たな発見の連続であり、大きく印象に残っています。例えば、集落活性化意識醸成



原木椎茸の栽培地

支援事業では、農産物のブランド化に取り組み西予市横林地区にて、大学生や地域の皆さんとともに原木椎茸の栽培地や商店などを巡るフィールドワークを行いました。さらに(一社)持続可能な地域社会総合研究所の藤山浩先生による人口分析結果と目標設定への助言を元にした地域分析ワークショップを行い、これからの横林について話し合いました。市職員として、他市町の特定の地域に継続して関わるという大変貴重な機会をいただきましたし、他の地域に触れることで、自分が思っていたよりもずっと狭い視野で今治市を見ていたことにも気付かされました。横林地区を含む、令和2年度に事業を実施した5地区の様子については、センターのホームページで学生の皆さんがブログ形式で紹介してくださっていますので、是非チェックしてみてください。



ECPR college

また、移住促進の分野については、在籍2年目を迎える直前から始まったコロナ禍の影響で、実施が叶わなかった事業も多くあり、正直なところ心残りもありました。しかし、移住フェアがオンライン開催となったことで、ライブ配信やオンライン交流会といった新たな取組みにもいち早く触れることができ、これらの経験は現在の職場でも大いに役立っています。

おわりに

センターの事業は、先を見据えて根気強く進む必要があるものばかりです。自分がお役に立てたかどうか、その結論が出るのは少しばかり先のことになるかもしれませんが、先進事例を学びながら地域課題解決に向けて皆さまとともに取り組んだことは、私にとつて今後の大きな糧となりました。これもひとえに、お力添えを頂いたセンター職員の皆さまや、関係団体の皆さま、地域の皆さま方のおかげです。2年間、本当にありがとうございました。

支援助業では、農産物のブランド化に取り組み西予市横林地区にて、大学生や地域の皆さんとともに原木椎茸の栽培地や商店などを巡るフィールドワークを行いました。



愛あるえひめ暮らしフェア

の影響で、実施が叶わなかった事業も多くあり、正直なところ心残りもありました。しかし、移住フェアがオンライン開催となったことで、ライブ配信やオンライン交流



オンライン移住フェアの裏側

